

## 青いバラ、白浜駅に展示

サントリー 観光協会に寄贈



東灘産代表（左）から青いバラを届け取る白浜観光協会職員。4日、JR白浜駅内の紀伊半島観光情報ステーションで。

という。

駅にいた観光客らが早速、携帯電話のカメラで撮影。滋賀県野洲市の東郷京子さん（69）は「新聞で見えて知っていた。まさかここで出会えるとは」とうれしそうに話した。

サントリー（本社・大阪市）が世界で初めて開発した青いバラを白浜町の白浜観光協会に10本寄贈した。4日、JR白浜駅にある白浜観光協会運営の「紀伊半島観光情報ステーション」に展示された。

白浜町でバラの栽培を広めている東灘園（みなべ町）の東灘産代表が取り持った。つ

ほみの状態の切り花が、東代表から観光協会の職員に手渡され、中田力会長が「時代の先取りに努める白浜温泉にとってうれしいプレゼント」と礼を述べた。

青いバラはサントリーが約14年かけて開発し、11月から市販を始めた。つぼみのうちは紫がかっているが、花が開くとともに青色が増していく